

総合質管理(TQM)部ニュース

2024年10月号(第15号)



今月は、認知症ケア課とスキンケア課の紹介です

認知症ケア課 老人看護専門看護師 福嶺初美

認知症があっても治療を受けられることを目的に活動しています。
具体的には、BPSD（認知症の行動・心理症状）やせん妄の発症、コミュニケーション障害がある方に対しても
看護ケアの水準を維持しつつ、看護ケアの質（アセスメントする力など）の向上を目指して取り組んでいます。

【参考文献】 著者名：矢吹 知之、 書名：私が私であるために

「認知症の人は自分のことをいちばんわかっている」

認知症の人は、自分が認知症であることを自覚し、もがき苦しんでいます。しかし、認知症の人が感じている現実を私たちが見過ごしてしまえば、さらに本人を苦しめてしまい孤独な戦いが続きます。

認知症の人はときに激怒してしましますが、私たちはこれを「易怒性」としてレッテルをはり、「本人が感じている気持ち」を見過ごしてしまうことがあります。認知症の人は自分に違和感を抱いているからこそ、上手くいかない時、もどかしい時、それがうまく伝えられなくて怒り、イライラし孤独に戦っています。日常生活のあらゆる場面で生じる「本人が感じている気持ち」に関心を寄せて理解することが認知症の人のケアです。

「あなたは認知症についてどのようなイメージをもっていますか」

イメージとは最初から存在するものではなく形成されるものです。国会議員やテレビ俳優、留学生等々、それぞれに対するイメージが存在しています。ただし、これらの1人ひとりの生活や背景について深く詳しく理解している人は少なく、もしかすると個人ではなく、集団やカテゴリーをみて理解したような感覚になっているにすぎないのかもしれない。

私達は、「高齢者」とか、「認知症の人」というカテゴリーで1人の人を理解したつもりでいる恐れがあります。加えて、認知症というのは、目に見えません。そのため「気づく」や「感じる」ための高いアンテナをもつことが大切です。うまく言葉がつかえず、自分の感情を微笑みで表現されている認知症の人に対して、私達はその場面をみて、「かわいかな〜」という理解は適切でしょうか。



スキンケア課 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 横山絵麻

皮膚・排泄ケア特定認定看護師を一言で言うと、スキンケアと排泄ケアの専門家です。
創傷の予防・早期治癒を図るためのケアや、ストーマ、排泄ケアで変化する生活や、不安なところに寄り添い、その人らしく生きることができるケアを共に考え提案していきます。



脱水と褥瘡

褥瘡(床ずれ)は、皮膚の同じ部分(特に骨が突出している部分)への圧迫や摩擦・ずれが持続することで起こることは、みなさんご存知だと思いますが、褥瘡と脱水の関係について今回はお話ししたいと思います。

みなさんよくご存じと思いますが、脱水症とは、体内の水分や電解質（塩分など）が不足した状態を指します。脱水になると、口の渇きや体のだるさ、立ちくらみ、皮膚や口唇、舌の乾燥、皮膚の弾力性低下、微熱、食欲低下、脱力、意識障害、血圧低下が現れます。



褥瘡を発生しやすい患者の多くは、体を自力で動かすことができない安静・寝たきりの状態で日々を過ごしています。全身運動の低下、または加齢によって身体機能が落ちて十分な栄養を摂取することが難しくなることにより、脱水症状を招きやすくなります。脱水による皮膚の弾力性の低下、食欲低下による栄養障害、血圧低下による循環障害は褥瘡の発生要因になります。褥瘡発生を予防するために脱水症状にも目を向けてみませんか。

～在宅での学び～ 私は、月に数回程度、施設や患者宅に訪問を行っています。その時にハツとした出来事です。

ある施設で入浴の様子を見ていた時に、その施設では脱水予防に入浴後、コップ1杯のリンゴジュースを利用者の方に飲ませていました。1回の入浴で体から失われる水分（41℃の風呂に15分間入浴後30分間安静時）は800ml*だそうです。院内で入浴介助をする患者のほとんどは、自分で水分摂取を行うことができません。どれだけのスタッフの方が、入浴を行う患者様に対し、入浴前後の水分補給を行っているのでしょうか。



*Tadano K, Sakurai M, Shimizu M, Noda T, Hamada K, Morimoto T, Tadano J 医学と生物学 2010; 154: 376-386

次回は、緩和ケア課・がん化学療法課です。